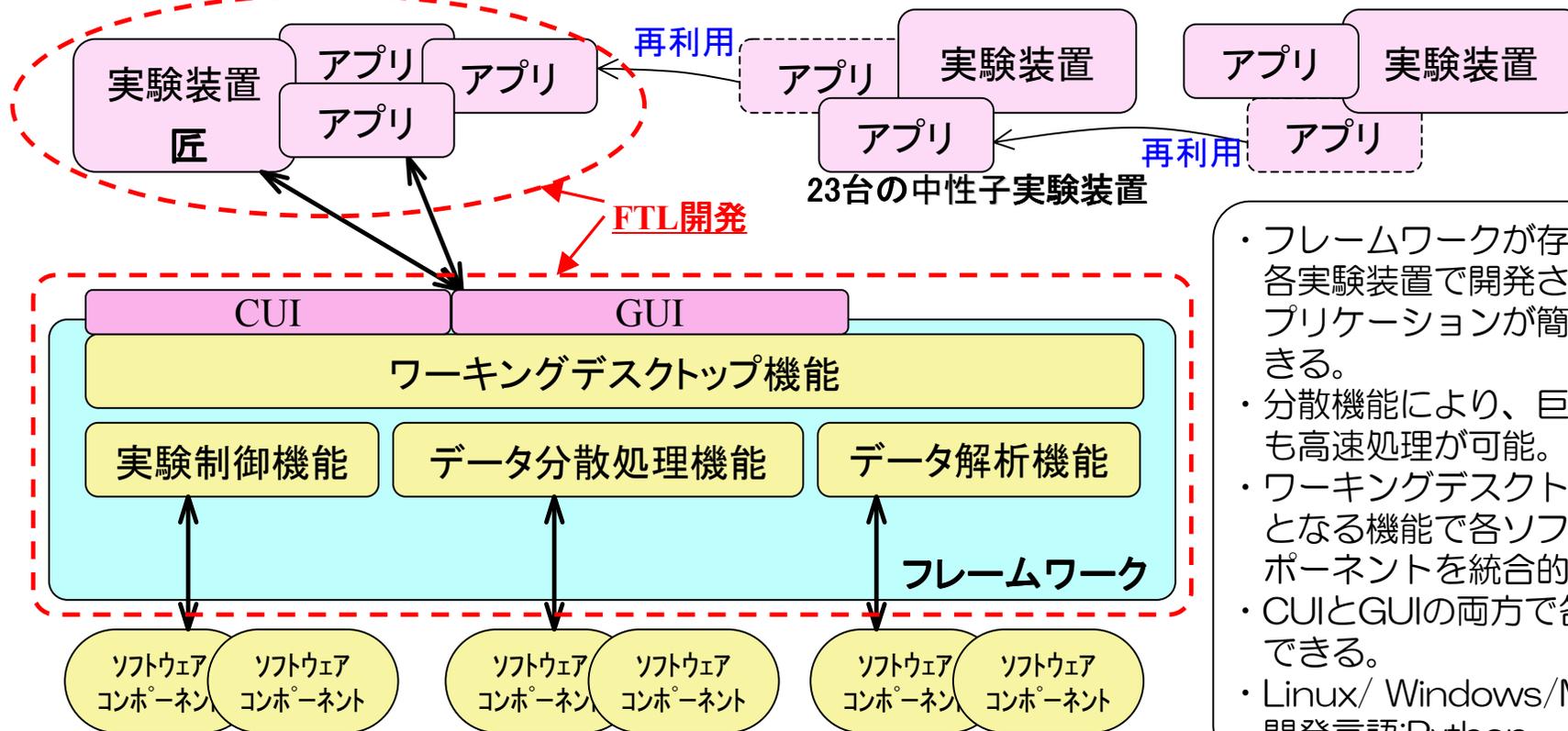


J-PARCフレームワーク開発



J-PARCとは大強度陽子加速器施設(Japan Proton Accelerator Research Complex)のことで、平成12年より独立行政法人日本原子力研究開発機構と大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構が共同プロジェクトとして建設を進めてきたもので、中性子やニュートリノ等の量子ビームを利用して広範な分野において研究を推進する複合研究施設です。

FTLは、実験施設の中の物質・生命科学実験施設の中性子散乱実験装置群における計算環境の基盤部分となるデータ集積・制御系ソフトウェアフレームワーク(以下、フレームワーク)、23台の中性子実験装置内の1台である工学材料回折装置(通称、匠)のソフトウェア、並びにフレームワークとの接続・連携の設計と製作を行いました。



- ・フレームワークが存在することで各実験装置で開発された高度なアプリケーションが簡単に再利用できる。
- ・分散機能により、巨大なデータでも高速処理が可能。
- ・ワーキングデスクトップ機能は核となる機能で各ソフトウェアコンポーネントを統合的に呼び出す。
- ・CUIとGUIの両方で各機能が操作できる。
- ・Linux/ Windows/Macに対応
- ・開発言語:Python

2009年7月6日に J-PARC完成記念式典(於:東京九段会館)が開催されました。
その式典にてJ-PARCセンターより本開発が評価され、感謝状をいただきました。

